

薬だつ知識

病原菌が変化して抗生物質や抗菌薬が効かない「薬剤耐性菌」が世界中で増え続けています。このままだと、この菌による世界での死亡者数は、2050年には現在のがん死亡者数を超えると推定されています。WHOは16年に「薬剤耐性対策アクションプラン」を策定し、わが国も対策を推進しています。

なぜ抗菌薬が効かなくなるのでしょうか。病原菌は、中途半端に抗菌薬にさらされると、生き残り策として、抗菌薬を壊す酵素を作りだす、効く場所の形を変える、菌の外にポンプで汲み出すなどの仕組みを作り、抗菌薬を効かなくします。

抗菌薬を中途半端に使うと、耐性菌を増やす原因になります。耐性菌が増え、抗菌薬が効かなくなり、発症しても適切に治療すれば軽症で回復できた感染症が、治療が難しくなっ

抗菌薬は最後まで服用

て重症化しやすくなります。免疫力が低下した人では死に至る可能性も高くなります。

それでは、耐性菌をつくらなため、できることは何でしょうか。それは、①感染を防ぐために口頃から手洗い・咳エチケットをする②症状を医師に詳しく伝える③分らないことは医師や薬剤師に聞く④量と時間を守って最後まで抗菌薬を服用する⑤抗菌薬は人にあげない、人からもらわないことです。

また、抗菌薬はウイルスには効きません。風邪の原因はウイルスで、治すのは自身の免疫力です。ウイルスが原因の風邪は、

抗菌薬を飲んでも意味がない。え、抗菌薬には副作用もあります。「抗菌薬は処方しません」と言われたら、それは、患者本人や周りの人、そして、今後の世界を長い目で考えて判断と断ってください。(鹿児島県薬剤師会副会長・福岡龍一)

読者の皆さんから今後取り上げてほしいテーマを募集しています。はがきかファクス099(254)612992でお寄せください。〒890-8588 鹿児島市与次郎2-8-15 県薬剤師会「薬だつ知識」係まで。

18. 薬剤耐性菌

薬剤耐性菌の啓発ポスター(国立国際医療研究センターAMR臨床リファレンスセンター提供)

効かない薬が増えている!!

薬剤耐性を知っていますか?

AMR(Antibiotic Resistance)

「薬剤耐性」(AMR)とは、感染症の原因となる細菌に、抗菌薬(抗生物質)が効かなくなることです。抗菌薬を正しく使わないと、からだの中で耐性をもった細菌が増えて、感染症の治療や手術の際に被害を及ぼすことがあります。

抗菌薬は正しく服用しましょう

- かぜやインフルエンザに抗菌薬は効きません
- 抗菌薬をもらうには処方箋が必要です
- 医師の指示通り飲み切りましょう
- 抗菌薬をあげたり、もらったりしてはいけません
- 抗菌薬を捨てておいたり、別の薬に混ぜてはいけません
- わからないことは医師や薬剤師に聞きましょう

AMR臨床リファレンスセンター
Antibiotic Resistance Clinical Reference Center